



AnGes

アンジェス株式会社

2026年12月期 第1四半期決算サマリー



2026年5月

2026年度第1四半期の主な事業トピックス

【HGF遺伝子治療用製品】：米国におけるBLA準備を進める

米国：臨床試験を完了とし、生物製剤認可申請(BLA)準備をFDAと協議のうえ進める

FDAとType B Clinical Meetingを実施

→臨床に関する申請方針について合意を得る

日本：米国での進捗をふまえ検討

【NF- κ BデコイオリゴDNA】：国内での第II相臨床試験実施中

米国における第I相臨床試験の結果が北米脊椎学会発行の「The SPINE Journal」に掲載

日本国内での第II相臨床試験は症例登録が進捗

【Tie2受容体アゴニスト】：米国でのARDSを対象とした第II相臨床試験実施中

米国における第II相臨床試験は計画した患者登録は完了→脱落症例を追加登録中

血液透析患者の認知機能障害軽減を評価する医師主導試験で最初の患者投与を完了

【ゾキンヴィ】：概ね計画に沿って販売中

2026年度第1四半期の主な事業トピックス

【ACRL】：拡大新生児スクリーニング検査の受託は安定

・拡大新生児スクリーニング検査

対象疾患が9疾患から14疾患に拡大し、受託数は安定してほぼフル状態

・希少遺伝性疾患の診断から治療までの包括的な検査体制を構築

遺伝学的検査の対象疾患を拡大

→HGPS及びPDPLに加え、拡大新生児スクリーニングの対象7疾患も新たに追加

バイオマーカー検査を二次スクリーニングに活用する研究が論文公開

【EmendoBio社】：OMNIヌクレアーゼに関する研究成果を米国にも展開

米国における研究開発活動及び導出等を進めるための体制づくりを進める

スタンフォード大と新たながんゲノム治療法の共同研究を推進

米国での新たな研究開発拠点の開設を検討

2026年度第1四半期 連結業績

事業収益は増加するも、HGFの申請準備費用により事業費用が増加

(単位：百万円)

	FY2025-1Q	FY2026-1Q	増減
事業収益	169	203	34
事業費用	1,424	1,700	275
営業損益	△ 1,255	△ 1,496	△ 241
営業外収支	17	386	368
経常損益	△ 1,237	△ 1,110	127
特別損益	0	0	0
当期純損益	△ 1,247	△ 1,082	165

事業収益 (前年比+20.4%)

- ・ACRLでの拡大新生児スクリーニング検査が124百万円 (YoY+9.7%)
- ・ゾキンヴィの売上げ78百万円 (YoY+42.4%)

事業費用 (前年比+19.3%)

- ・売上原価：121百万円 (YoY+8百万円)
ゾキンヴィの売上原価の上昇
- ・研究開発費：1,007百万円 (YoY+217百万円)
主にHGF申請準備にかかる費用の増加
- ・販管費：571百万円 (YoY+49百万円)
主にEmendoBio社の租税公課の増加

営業外収益 (前年比368百万円)

- ・EmendoBio社への貸付金の評価替えて為替差益385百万円

2026年度第1四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025年12月末	2026年3月末	増減
流動資産	4,386	3,367	△ 1,018
うち現金及び預金	1,882	835	△ 1,046
固定資産	1,019	1,104	84
総資産	5,405	4,472	△ 933
負債	2,329	2,448	118
純資産	3,076	2,023	△ 1,052

流動資産

第46回新株予約権により414百万円を調達
事業費用等の支出により 流動資産△1,018百万円

純資産

第46回新株予約権の行使により
資本金及び資本剰余金が各+211百万円
四半期純損失により 純資産△1,052百万円

遺伝子の力を活用し、すべての人に治療の機会を届けます



アンジェス ホームページ
<https://www.anges.co.jp>